

パセリ*1(野菜類、セリ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	う ど ん こ 病	疫 病	灰 色 か び 病	立 枯 病	軟 腐 病	斑 点 病	ア ブ ラ ミ ム シ	ア ザ ミ ウ マ	キ ア ゲ ム	ア オ ム	コ ナ ガ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ネ キ リ ム シ	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
											類	類	ハ	シ	ガ	シ	ウ	類	ウ
アグロケア水	BM2		1	-	◎		◎			◎									
エコショット顆水	BM2		1	-						◎									
Zボルドー水	M1		-	-					◎										
スターナ水	3I		14	2					◎										
ベンレート水	1		45	2				◎											
アフエットFL	7		3	2	◎														
アミスター20FL	11		45	1	◎														
ストロビーFL	11		14	1	◎														
スコア顆水	3		3	2	◎														
トリフミン水	3		30	1	◎														
キノンドー粒	M1		*a	1					露										
ユニフォーム粒	4・11		21	3		◎			露										
ヨネボン乳	M1		14	3	◎				◎	◎	◎								
ゼンターリ顆水	11A		*b	-								◎							
トアロー水CT	11A		*b	-									◎	◎	◎	◎			
スピノエース顆水	5		14	2												◎			
ネマトリンエース粒	1B		*f	1															◎
アーデント水	3A		7	3								ギ							
ガードベイトA粒	3A		1	3														◎	
テルスター水	3A		3	2							◎								
フォース粒	3A	劇	*e	1														◎	
			*c															◎	
アドマイヤー1粒	4A		*e	1							◎								
			*c								◎	◎							
			14	1							◎								
アドマイヤーFL	4A	劇	14	1							◎								
ダントツ溶	4A		14	1							◎								
モスピラン顆溶	4A	劇	3	1							◎								
アフファーム乳	6		7	1														◎	
カスケード乳	15		7	1														◎	
マトリックFL	18		1	3														◎	
プレバゾンFL 5	28		7	1												◎	◎		
ウララDF	29		1	2							◎								

*1:パセリ…モスカールドパセリ、イタリアンパセリ

*a:播種前 *b:発生初期(但し収穫前日まで) *c:定植時

*d:生育期(但し収穫90日前まで) *e:播種時 *f:定植前

ギ:ネギアザミウマ

露:露地

パセリ(野菜類、セリ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
うどんこ病	生育期	・発病を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビーフロアブル● 3000倍 トリフミン水和剤● 8000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
軟腐病	播種前および発病初期	1. 低湿地での栽培を避け、排水を良好にする。 2. 発病のごく初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ☆キノンドー粒剤 20kg/10a スターナ水和剤 2000倍	各作物に発生し、土壌伝染する。 病原細菌は傷口などから侵入する。 高温多湿のときに多発しやすい。 ☆露地栽培のみ
	生育期	・次の薬剤を予防的に散布する。 Zボルドー(水) 800倍	
アブラムシ類	生育期	1. 苗床は寒冷紗などで被覆する。 2. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤーフロアブル 4000倍 モスピラン顆粒水溶剤 8000倍	
キアゲハ	生育期	1. 幼虫を捕殺する。 2. 施設では開口部に寒冷紗などを張り、侵入を阻止する。 3. 発生初期に次の薬剤を散布する。 ゼンターリ顆粒水和剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	1. 幼虫を捕殺する。 2. 施設では開口部に寒冷紗などを張り、侵入を阻止する。 3. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アフファーム乳剤 2000倍 カスケード乳剤 4000倍 トアロー水和剤CT 500倍	